10．九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	高級レストラン（社長）	来客数の動き	・当地ではイベントが開催されたため、観光客が多かった。
		旅行代理店（企画）	販売量の動き	・東日本大震災の影響による旅行控えの状況から、ようやく回復してきた。円高の影響もあり、海外旅行については回復基調にある。伸びている訳ではないが、ようやく前年実績に届いた状況である。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・年末に近づくにつれてキャンペーンやセール等があり、消費意欲は向上する。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が微増しており、まとめ買いの客も目立つようになっている。
		一般小売店［精肉］（店員）	販売量の動き	・当地には複数の大型商業施設が開業しており、集客が見込める。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・３か月前に比べるとやや良くなっている。地元球団の優勝セール等もあったため、その分が売上を押し上げた。前年には届かなかったものの、極めて前年に近い数字となった。高額時計や敷物等の一部高額品が持ち直しており、消費の二極化が鮮明となっている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・３か月前の売上は前年比98.2%、現状は前年比108%で推移している。ただ来客数が前年並みで、懸念材料となっている。紳士服で前年比102%、婦人服が前年比107%、食品は前年比105%、家庭用品が前年比100%と伸びており、客単価も若干上がっている。１品単価は前年並みで、購買率も上がっている。全般的に悪い部門が見受けられない。近隣の同業他社をみると、前年に大きく伸びた施設でも予算通りに推移しており、また他の店舗も好調である。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・東日本大震災から半年が過ぎ、食品の放射能汚染問題の影響や過剰な消費抑制が少し薄まり、消費が回復傾向にある。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・メーカーの車両生産が正常に戻り、一部の車種を除いて通常の在庫車数となった。新車受注も新型車、マイナーチェンジ車等で堅調に推移し、計画通りの実績となっている。中古車販売、サービス関連の売上も前年を上回っている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・今回エコ商品を販売したが、それが好評となっている。販売量は２、３か月前と比べるとかなり伸長し、前年と比べても100%以上の伸長となっている。
		その他専門店［コーヒー豆］（経営者）	お客様の様子	・気候的にも寒くなり、客の自宅でのコーヒー消費量が増えている。売上がここ数週間で、徐々に上がっている。
		その他小売の動向を把握できる者［土産卸売］（従業員）	販売量の動き	・７、８月の売上はほぼ前年並みで推移してきたが、９月の売上は前年を下回っていた。そのため、10月の売上が心配であったが、わずかであるが前年を上回った。景気はやや良くなっている。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・九州新幹線全線開業の影響で多くの県外客が当地に足を向けている。ホテルや飲食店も客が増えている。しかし市内の買物客が減っており、県外からの旅行客が金を落としている状況である。
		一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・周りの様子をみると、飲食店は客が増え、安定した売上を確保している。来客数も以前より増えている。
		その他飲食［居酒屋］（店長）	来客数の動き	・当地は東日本から客が流れてきている。また九州新幹線全線開通で県外の客が著しく増えている。店の来客数も増えている。
		観光ホテル（総務担当）	来客数の動き	・10月は当地で大きなイベントが行われ、宿泊では客室の稼働率が90.2%と前年を2.4ポイントも上回る高稼働となった。客室単価も前年同月を1,255円上回った。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・個人のレジャー需要は、国内から近場の海外へシフトしている。ただし、タイへの旅行は洪水被害により、予約のキャンセルが日増しに増えている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・東日本大震災後の電力供給不足等もあり、多方面で緊縮を強いられていたが、その我慢も限界にきている様子で、消費者は少しずつ金を使い始めている。人の動きは少し良くなった。

		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来客数は前年比140％と大きく伸びている。ゴルフシーズンの到来もあり、特に県外客が増えている。九州新幹線の全線開通の効果が大きく、すごく良い状況となっている。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・秋の天候となり客足は通常に戻っている。しかし、10月は地域の運動会等の行事が多いため、特に土曜日の客入りが良くない。価格競争も相変わらず厳しく、一度下がった料金は元に戻らない。
		設計事務所（代表）	来客数の動き	・来場、資料請求が一時的に増えている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・福島第一原子力発電所の収束の道筋がいまだみえず、放射能汚染問題の話題は尽きない。増税やタイの洪水被害の影響等、不安要因が多く、個人消費が盛り上がる気配がない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・９月の雨の影響で野菜等の単価が暴騰し、入荷も少なくなっている。客の様子をみても、かなり厳しい状況となっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・客の様子から９～10月にかけて大きな景気の動きは感じられない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・週末の度に雨が降り、そのうえ中心市街地の空き店舗がなかなか埋まらない状況が続いている。来街者数がかなり減っており、悪い状況がずっと続いている。
		一般小売店［青果］（店長）	それ以外	・今まで気温が高温であったため、北海道、信州の野菜が中心であったが、このところ涼しくなり、九州及び県産の商品が出回るようになった。野菜の単価が下がっているが、その分、商品全体の売上が上がっていない。
		一般小売店［茶］（販売・事務）	販売量の動き	・通常、販売量が増えていく時期であるが、今月の販売量は大幅に減少しており、在庫品の動きが鈍い。特に、価格の高い茶が売れていないため、景気は悪いまま推移している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来客数は土日祝日を中心に前年実績を確保したが、レジ客数は前年比で減少、買上単価は前年並みとなった。全店クレジットポイント催事と全店粗品付きダイレクトメール催事を同時開催し、来店を促進した。店頭催事場も好調で、現金での買上が減少し、クレジットの利用や友の会満会金券の利用が多く、現金温存の傾向が続いている。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・前月は残暑により衣料品を中心に秋物の動きが鈍かったが、今月は冷え込みとともに秋物が動き出している。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・秋の訪れとともに、秋冬物の動きが出ている。節電意識の高まりもあり、防寒用品の動きが出ている。衣料品の動きも前年より良い傾向にある。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・先月と比較すると、秋冬物の商品が好調に推移するが、全体を押し上げる状態には至っていない。イベントの実施等、客の消費意欲を向上する施策が奏功している。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・客の買物控えが顕著となっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・週末、祭り日等の催事イベントは、以前から売上が回復基調にある。ただ依然として客の節約、倹約マインドが高く、平日の売上は上がらない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・売上は前年比102％位で推移している。米等の単価が前年より上がっている分、売上が良いようだ。魚や肉は苦戦している。景気の流れは変わっていない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の増減は３か月前と比較して変化がない。食品はテレビで話題となった菓子や乳製品等の新製品は非常に活発に動き、販売点数がアップするが、通常の商品は販売点数が減少し、全体では来客数、販売点数共にあまり変化はない。
		スーパー（業務担当）	販売量の動き	・生鮮食料品の価格高騰により販売点数が伸び悩んでいる。家庭用品も日用品、消耗品は必要最低限の購入で済ませ、安くてもまとめ買いをしなくなっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・販売、売上自体は前年を上回る店が出てきたが、売上の中身をみると、タバコの増税が大きく影響している。タバコを除く他の商品群については以前として前年を下回っている。

コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・今月の来客数は夏場と比べると減少しているが、前年と比べるとあまり変わらない。客単価もタバコの増税分を考えれば、下がったようにも思えるが、前年とあまり変わらない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・商店街として色々イベントを行っているが、来客数は増えず、売上も前月と変わらない。
衣料品専門店（総務担当）	それ以外	・当地は商店街において競合店が２店閉鎖するという特殊な状況下にある。当社の売上はその影響を受けて上昇している。
乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・エコカー減税終了前の駆け込み需要で来場者は多くなると期待したが、あまり増えていない。
住関連専門店（経営者）	競争相手の様子	・毎月行っているキャンペーンはそれなりの成果があるが、店舗での販売は相変わらず厳しい。地域産業祭りではメイン会場の来場者はここ数年増えているが、各々の店舗への来場者は変わらず、厳しい状況となっている。
その他専門店［ガソリンスタンド］（統括）	お客様の様子	・地域最大の地方祭りが催され、前年以上の人出となりにぎわっていた。当地を訪問する県外客も多く、期間中は３連休と重なり、燃料油の販売は前年をやや上回った。客の様子をみても、節約志向の様子は少なく、家族で地方祭りを楽しみ、露店の商品も例年並みの販売となった。
その他小売の動向を把握できる者［ショッピングセンター］（総支配人）	来客数の動き	・物販スペースの来客数は、ほぼ横ばいで推移しているが、シネマ等の娯楽関連及び飲食レストラン街の状況が悪い。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数、特にディナーの客が減少している。
高級レストラン（従業員）	来客数の動き	・婦人客が少し多くなっている。
一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・昼夜、食事の時間帯だけに客が集中する。
スナック（経営者）	来客数の動き	・相変わらず低いレベルで来客数が推移しており、特に週末営業が落ち込んでいる。
都市型ホテル（副支配人）	お客様の様子	・10月は当地区で学会等のコンベンションがあり、その関係で宿泊客が増えている。
タクシー運転手	お客様の様子	・県外客が少しずつ増えているが、月初、月末はタクシーの動きは悪い。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は予約状況が大変良かった。また、昼間は観光の客や遠方からの客やゴルフ場関係の客が多く、稼働率が大変よかった。売上も増加した。ただ夜の客が少ないのは相変わらずである。
通信会社（総務局）	販売量の動き	・販売量は前年実績を上回って推移しているが、景気が上向いているとはいえない。
通信会社（業務担当）	競争相手の様子	・他社のスマートフォンが人気で予約待ちの客も多いと聞いているが、当社も好調を維持しており、前年を上回った販売が続いている。
通信会社（営業担当）	それ以外	・東日本大震災の復興策等が順調に進んでいないこともあり、景気はなかなか良くならない。またスマートフォンについては、個人客の購入はやや増えているが、法人客においてその活用法がまだ明確でないこともあり、全然購入は増えていない状況である。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・季節要因や特殊要因を除き、販売量に大きな変動がみられない。
美容室（経営者）	販売量の動き	・化粧品業界関係は３か月前と比べて、景気の向上は少しもみられない。東日本大震災の影響に加え、放射能汚染問題等もあり、不安要素が多く、消費者は金を使わなくなっている。景気対策も進んでいない。
美容室（店長）	来客数の動き	・10月末頃から、少しは来客数は増えると思っていたが、予想に反して横ばいとなっている。
その他サービスの動向を把握できる者［介護サービス］（管理担当）	来客数の動き	・利用客が横ばいで推移しており、落ち着いている。
住宅販売会社（代表）	お客様の様子	・客の見積金額に対する反応や単価等が少し鈍っている。

	やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・今の季節は旅行や行事が多くなり、洋服を着る機会、また出かける機会が多くなるため、衣料品が動く時期である。しかし、今年はそのような動きがなく、年金が入った時に少し動きがある程度で、客は節約している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・増税や年金問題、消費を取り巻く環境が厳しい。秋の訪れが遅く、気温も高めで季節商品の動きが鈍い。
		一般小売店［生花］（経営者）	お客様の様子	・定期的に納品している飲食店の売上、来客数が減少している様子が、納品業者の私でも分かるように顕著となっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・10月に入り、気温が低かったり、高かったりと安定せず、秋冬物の動きが良くない。全館レベルの販売促進策にも客の反応は今一つで、売上は伸び悩んでいる。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・増税や年金支給年齢変更の報道等で消費者の財布のひもは確実に固くなっており、不要不急の物の購入には大変慎重になっている。特に、飲食や紳士者の衣料品は厳しい傾向が強い。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・消費者の節約志向は相変わらず強いままでなかなか改善しない。現状の円高や将来の先行き不安、年金問題等で先行きに明るい見通しが立たない限り、この傾向は続く。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価は少しは伸びているが、来客数の減少で売り上げは前年比98％となっている。競合店の出店もあり、競争が激化している。
		スーパー（総務担当）	競争相手の様子	・東日本大震災からの復興の兆しが徐々にみえ、経済全体は緩やかに回復進展しているが、消費は依然として弱含みで推移している。また、デフレ進行とともに購買点数も増加していないため、売上の確保が困難な状況である。
		スーパー（売場担当）	販売量の動き	・毎月、販売量が減少している。買上点数が悪いため、売上も悪い。
		コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・競合店の出店が相次ぎ、狭い商圏で競争が激化し、厳しい状況が続いている。客は安い物にしか興味を示さず、価値のある商品という理由だけでは購入に至らない。客単価も下がっている。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店、コンビニエンスストア、ローカルスーパーをトータルでみると、前年比6.4％の増加となっている。予算に対しては3.6％減である。そのなかで量販店では販売促進の戦略を立て、食パンや菓子パン等の特売をし、なんとかこの数字を保持している。特売がなければ、前年割れの状況となっていた。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・前年に比べて来客数がかなり減っている。特に買い回り客が前年より２割ほど減っている。目に見えて来客数が減り、売上も落ちている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・10月は思った以上に来客数が伸びなかった。気候は涼しくなってきたが、接待等が減っており、来客数も売上も計画通り伸びず、大変苦労している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夜の歓楽街の動きが非常に悪い。金曜日や土曜日はいくらか良いが、とにかく平日は人がいない。
		通信会社（管理担当）	それ以外	・資金繰りが厳しい状態が続いている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・団体客、個人客共に予約は伸びず、厳しい状況が続いている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・当店は営業して長いが、客は安いところへ流れていく傾向があり、当店でも単価を引き下げざるを得なくなっている。サービスもだんだん過剰になっている。就職難の時代に美容師になる人も多く、近隣に美容室が６軒できている。競争が激化し、厳しい状況である。
		音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・体験レッスンを受ける人が少ない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・資金があまり動いておらず仲介の成約も少なくなっている。今は土地を買うどころではなく、将来に対する不安、投資を控えたいという状況がみえ隠れしている。
	悪くなっている	一般小売店［鮮魚］（店員）	競争相手の様子	・仲間内では、今年の魚の動きは悪く、今月は特にひどいという話ばかりである。安くしても魚が売れず、厳しい状況である。

		百貨店（営業担当）	それ以外	・来客数、売上数量、買上単価はいずれも前年に比べて大幅に減少している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・景気の良し悪しの判断がとても難しい。売上は悪いなりにあまり変化のない状況が続いている。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・テレビ及びその関連商品の売上の落ち込みが予想以上に大きく、売上全体に悪影響を与えている。
企業動向関連	良くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・電力エネルギー蓄電用バッテリーの生産設備需要が依然としてある。
	やや良くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節的にも繁忙期であるが、例年に比べ受注量が増加している。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・冷凍食品の原料肉の引き合いが相変わらず強い。加えて、10、11月は原料の鶏肉も少なく、取引先に迷惑をかけている状況である。居酒屋、量販店の受注は少しずつ戻っているが、牛肉の食中毒問題からは完全には立ち直っていない。
		農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・牛の枝肉の販売はまだまだ厳しく、なかなか従来のような販売に戻らない。餌の価格も高止まりしており、非常に厳しい状況である。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量は微減傾向であるが、景気は変わらない。
		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・毎年あった受注がなくなり、販売量も減り、かなり厳しい状況である。同業者が閉鎖したことで、受注ができている面もあるが、もともと厳しい状況なので、良い状況とはいえない。工賃は安いままである。それに加えて最低賃金は上がっており、経営者としては、苦しくなる一方だ。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月の受注状況は前年と比較して10％減少している。商業施設のなかでも、飲食店舗の出店が年末に向けて加速するが、あまり動きがない。飲食業界の出店が多くなれば、それに伴って家具も売れるが、マーケットが縮小している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月は焼物業界では一番忙しく、活気のある月であるが、例年と比べると受注、価格共に落ち込んでおり、夏場とほとんど変わらないような状況である。特に量産化された産地であるので、そういう面でも量から質というものが問われている。また、少子高齢化で景気も悪いのでギフト、景品類でも大きく落ち込んでいる。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・景気の不透明さが顕著となっており、良いとか悪いとかの状況ではなく、どちらともいえない。
		建設業（社員）	競争相手の様子	・当社は例年通りであるが、同地区の同業者には、受注できていない業者もいる。10月で上半期が終わり、今後の発注は期待ができない。下請の見積提出でも競争相手が７社も８社もいる。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・食料品や雑貨等の日用品の受注はある程度あったが、新聞紙や段ボールの原紙となる巻き取り紙、包材関係の受注もかなり少なく、製紙業界の景気は良くない。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・アパレルや食品、日用雑貨、化学工業品等全般的に荷動きが悪くなっている。
		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・荷物の動きが良くない。東日本大震災や円高の影響があるのか、今一歩の状況である。
		金融業（従業員）	それ以外	・商店街でのクレジットカードの利用が減少している。消費に対して慎重さがうかがえる。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先である建設業などの中小企業は、３か月前と比べ受注数は増えてきているものの、受注単価の低位が続き、収益は改善していない。したがって景気自体は変わっていない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業の生産水準等、多くの分野で２月の水準を越えている企業が多い。一方で、円高の影響が消費マインドに対してマイナスに作用しているため、プラス要因とマイナス要因が同程度と思慮している。
		新聞社（広告）（担当者）	受注価格や販売価格の動き	・東京、大阪地区を中心に前年を超える広告出稿があるが、福岡ではまだ回復していない。食品、化粧品の通販などは好調であるが、全体では前年比90％にとどまっている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・受注量が全然増えていない。これは前年からほとんど変わっていない。

		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注量や引き合い件数に大きな変化がない。
	やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・世界的な不況と東日本大震災により、受注の決定時期が延びつつある。今後も急激に変わるようなことはない。10月の半ばを過ぎた頃から少し良くなる気配はあるが、決定的な受注に結び付かない。
		精密機械器具製造業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・上期の生産計画では、下期前半まで生産増で推移する計画であったが、取引先からの受注量が減ってきている。
		その他サービス業［物品リース］（役員）	取引先の様子	・取引先の主力である中小企業の延滞件数、金額が増え、条件変更等が増加傾向にあり、再条件緩和要請等も出てきており、厳しさを増している。
	悪くなっている	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・売れるように価格を下げているが、消費者は見向きもしない。必要な物以外は買っていない。
		その他サービス業［設計事務所］（代表取締役）	取引先の様子	・市町村がコンサルタントに発注する委託業務は、市町村の予算削減により、委託金額が極端に少なくなっている。入札予定価格が通常価格の半分以下になっている場合もある。このため、入札時に辞退する会社が増えてきている。受注しても赤字となる場合があり、厳しい状況となっている。
雇用関連	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	新聞社［求人広告］（担当者）	求人数の動き	・製造業の求人が好調であるのに加え、派遣の動きも活発になっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比8.7％の増加となっている。また、新規求人倍率は1.11倍と本年４月以降最も高い数値を示している。事業における採用意欲は高い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・卸売業、小売業、製造業、医療、福祉等の新規求人数が増加傾向にあり、改善傾向で推移している。
		学校［大学］（就職支援業務）	求人数の動き	・前年と比較して求人票の受理件数が増加し、また求人を再開した企業が見受けられる。
		学校［専門学校］（就職担当）	求人数の動き	・日本全体の景気は、厳しい見方が多いが、本校の求人状況だけをみると、継続して採用のニーズがある。また、業務拡大に伴う採用も出てきており、前向きな話が従来より増えている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人依頼に関して、特に変化がみられない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・携帯業界からの派遣依頼は、スマートフォンの展開に伴い増えている。また紹介予定派遣の依頼も増えているが、派遣期間よりも正社員になった時点での給与が低い場合が多い。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・マーケットは買手市場となり、採用が難しくなっている。
		新聞社［求人広告］（担当者）	周辺企業の様子	・大手の自動車工場を抱える北部九州では自動車製造の求人募集が増えている。部品調達が可能になり、量産体制に入っていると推測される。一方、円高で中国や韓国にシフトする傾向にあり、その他の製造業や中小企業は求人状況が良くない。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・ハローワークの新規求職者、求人数の状況をみると、本年10月の求職者数は先月に引き続き、前月を７％程度下回る。要因の一つとして、平成23年10月から施行された求職者新訓練の事業者申込件数が少なく、９月が基金訓練の期限切れによる駆け込み需要の影響とみられる。求人数は前年と比較すると、依然として増加傾向であるが、前年に比べると７％下回る見込みである。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人を新聞や求人誌へ出すと、応募者の反応がかなり多くなっている。特に、50代以上の男性からの応募が多い。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・定年延長、年金の支給年齢の引上げにて企業側の雇用状況が変わるなか、限られた人件費で会社運営をすると新卒等の雇用を控えざるを得ない。若い世代の雇用がないと今後の会社の成長もなく、成長がないと会社はまた雇用できなくなる。国に金がないことで国民が負担することは当然だと考えるが、成長のビジョンなき政策は企業をつぶしていく。

		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前月比微増で推移しているが、３か月前の大幅増と比べたらその伸びに鈍化傾向がみられる。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・派遣契約が９月で終了した件数は前年比で10％程度増加した。特に地方で、派遣契約の終了が増加している。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・年末年始の人材需要が前年の半分程度にとどまっている。
	悪くなっている	－	－	－